

平成27年度 各種調査結果を活用した学力向上の取組事例

事務所名	中部教育事務所	学校名	遠野市立遠野小学校	TEL	0198 - 62 - 3231
------	---------	-----	-----------	-----	------------------

調査結果を活用した学力向上に対する教師・児童・保護者の意識の高揚に向けて

【今年度の目標】(H26年度県学調活用レポートから)

1 県学調の教科の結果

- (1) 各教科における正答率80%以上の層を増加させる。
- (2) 理科、社会の得点分布の山が20問前後になるようにする。
- (3) 算数の正答率を「数と計算」80%、「数量関係」70%、「図形」「量と測定」80%以上にする。
- (4) 国語の正答率を「読むこと」70%以上、「言語についての知識・理解」正答率を80%以上にする。

2 県学調の児童の質問紙の結果

- (1) 「わからないとき、先生に聞く」の児童を増やす。(15~20%)
- (2) 「テレビの視聴時間が2時間以上」の児童を減らす。(40%未満)
- (3) 「1日の家庭学習時間が1時間以上」の児童を増やす。(40%以上)
- (4) 「授業がよく分かる」の積極的肯定の回答を各教科とも増やす。
(国語：40%以上，社会：50%以上，算数：60%以上，理科：60%以上)

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

1 学力向上対策の立案

各学団の代表が中心となって学力向上対策を立案し、全校体制で取組んだ。

2 「遠野小まなびフェスト」「遠野小スタンダード」の活用

家庭との連携を図り、全学級で統一した基本的な学習習慣の形成を図った。

【具体的な取組】

1 全国学調・県学調の結果分析と指導改善

(1) 全国学調・県学調の結果分析

6月に全職員で全国学調(H27年度実施)と県学調(H26年度実施)の問題を解いたり、「児童質問紙」の質問に回答したりした。調査対象は高学年だが、年度の始まりの時期に、出題の意図・量・内容を、全職員で共有した上で、各学年の指導に当たった。また、自校の実態を市や県と比較して本校の実態を明らかにした。

(2) 指導改善

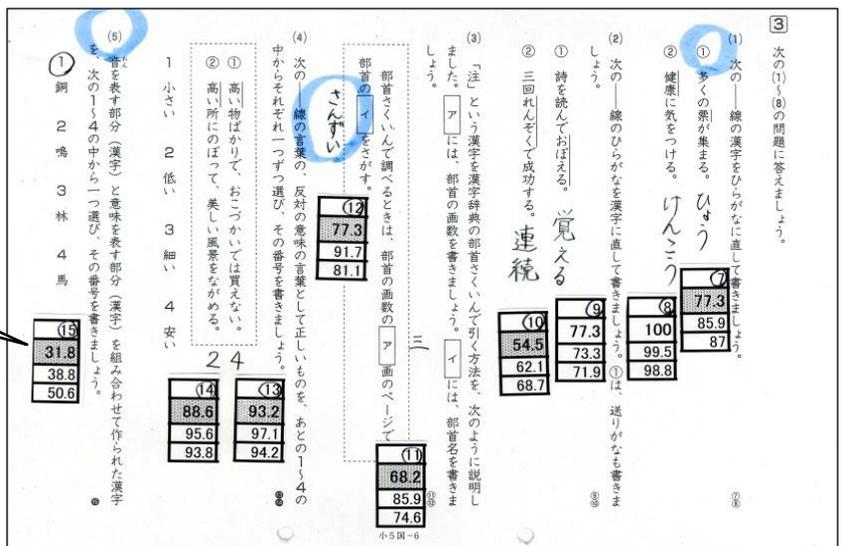
ア 9月・11月を強化期間とし、朝活動の10分間、1~2問題練習に取り組んだ。

イ 県学調における本校の実態資料を各担任、少人数指導担当に配付し、授業における意図的指導を促した。

本校の正答率が、市や県の正答率より低い問題には網掛け等を行った。また、大きく隔りがある問題には、印を付けて意識付けた。

(3) 考察

6月に、昨年度の県学調の問題や今年度の全国学調の問題に取り組んだことで、量の多さや、問いかけの視点、考えの記述のポイント等指導改善の視点を全職員で確認することができた。また、指導の強化期間を設定し、1日10分間、1~2問題に取り組むことで、焦点を絞った意図的な指導を位置付けることができた。



【県学調における本校の実態資料：少人数担当配付用】

これらの取組で、全校が同じ歩調で進めることができ、教師も児童も学習への意識を高めることができた。しかし、平成27年度実施の県学調では、各教科とも正答率を上げることができなかつた。授業での学習意識の高まりは実感することができたが、そこから家庭学習や調べ学習等の自主的な学習意識にまでは発展できない児童も多かった。また、教師側も取り組んだことで終わってしまい、さらに定着したかというチェックが不十分であった。校内体制のみならず、各教科・単元の授業においてもPDCAサイクルの重要性を痛感している。特に、「C：チェック」「A：アクション」の部分を意識して今後の指導に当たりたい。

2 少人数指導（きめ細かな指導）による実態に即した指導（算数）

(1) 実態に即した指導

3・4年では、2C3Tでの少人数指導を実施した。単元毎に、学年2クラスから希望者を募ったり、レディネステストの結果をもとにしたりして、3つ目の少人数クラスを設置し、個に応じた指導や学習意欲の喚起を目指す指導を実施した。

5・6年では、TTや少人数指導を実施した。単元毎にレディネステストの結果をもとに、担任が5名程度を人選して、少人数指導を実施した。

(2) 意図的な振り返りと評価

3～6年の少人数指導コースについて、単元毎に児童や指導者の振り返りを行った。児童に行ったアンケートでは、学習後の満足感、達成感を明確にさせたり、次単元への意欲を図ったりするような振り返りを行わせた。また、指導者も、児童への励ましを記述したり、単元全体の学習状況を把握しながら指導上の問題点や成果等を振り返ったりした。

【児童の感想から】

- ・いろいろな事が分かったし、手を挙げる回数も増えたのでよかったです。
- ・いっぱい問題を解くことができました。
- ・前は算数の問題が難しかったけど、この教室ではいろいろ頭に入って分かってきたのでよかったです。
- ・九九を、ほとんど完璧に解けたし、図形もきれいに書いて、ノートにまとめることができた。

【教師の励ましから】

- ・〇〇さんが一杯頑張ったから、最後は全問正解していましたね。すごい！次も頑張ってください。
- ・速くて、正しくて、美しかったです。「2500cm=□m」も、おしかったね。
- ・問題がどんどん解けるようになったね。次の学習もこの調子ですよ。

「授業内容がよく分かったか。」

「授業の進むはやさは、自分に合っていたか。」

少人数コースでの学習で、できるようになったことを意識づけた。

単元終了後の感想を記述させ、進んで振り返るようになった。

平成27年度		算数 少人数コースアンケート										集計表		[3年 組]		担当者		
名前	設問	かけ算の筆算(1)			大きい数のわり算			小数					重さのたいとばかり方					
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3					
〇〇〇〇	アイウエ																	
△△△△	アイウエ																	
××××	アイウエ																	
□□□□	アイウエ																	
〇〇〇〇	アイウエ																	
反省		かけ算の筆算では、くり上がった数をたすときに計算ミスがあった。 わり算とかけ算が混ざっていた。 わり算の時算が定着していなかった。			ある小数が0.1の何十分の何かを捉えること、4より0.2小さい数はいつかなどの問題がむずかしかった。 プリントは何回も問題をみて、小数に慣れることができた。					国語辞典の重さ…800g、自転車1台の重さ…12kg、などの感覚の復習が必要。はかりの一番小さい目盛りを読み取ることで、文章問題ができるようになった。 積極的な挙手、発言の姿が見られた。一人で考える時間に、勝手に発言する児童がいるので、取組方の指示を明確にしていきたい。								

【教師の単元振り返りから】

- ・国語辞典の重さ…800g、自転車1台の重さ…12kg、などの感覚の復習が必要。はかりの一番小さい目盛りを読み取ることで、文章問題ができるようになった。
- ・積極的な挙手、発言の姿が見られた。一人で考える時間に、勝手に発言する児童がいるので、取組方の指示を明確にしていきたい。

(3) 考察

少人数コースは、3・4年生は10人以下、5・6年生は5人前後とした。そのため、自分の考えに自信を持ってないでいた児童が積極的に発言したり、定着問題にたくさん取り組んだりするようになった。

「少人数指導アンケート」は、2学期から実施した。アンケート項目に、少人数コースでねらいたい内容

を入れたことで、指導者に少人数コースのねらいを意識させ、児童にねらいに沿った振り返りを行わせることができた。アンケート結果の集約は、少人数担当者がその結果や児童の変容を客観的に捉え、次の指導に活かす上でも効果的だった。

少人数コースと学級との学習進度を揃えるためには、担任と少人数担当者との連携が重要である。単元の教材研究を協力しながら行ったり、児童の様子についても情報交換したりと、さらに連携を蜜にしながら進めていく必要を感じている。

3 県学調結果や児童の実態に応じた「パワーアップテスト」の実施

(1) 「パワーアップテスト」問題の吟味——各種調査問題の活用

全校一斉に、年3回、パワーアップテストを実施している。国語と算数について、1週間の練習期間を設けた後にテストを実施している。50問程度の練習問題の中から、25問程度を出題し、3回以内で満点合格を目指す取組である。今年度は、昨年度の県学調結果を受けて国語に「伝統的な言語文化」、算数には「数と計算」「図形」の内容を加えた。また、2学期のテストには、今年度の学調結果から、誤答の多かった問題や下学年の既習問題を加えて実施した。

(2) 取組カード「わたしのパワーアップ計画」の活用——満点合格への意欲付け

一人一人の取組意欲を大事にしようと、取組カード「わたしのパワーアップ計画」を使用した。目標点数や取組方法を記述し、取組んだ足跡を残した。

このカードは、保護者にも公表し、家庭での学習意欲に結び付けた。

わたしの パワーアップ計画			
とりにくみ	もくひょう	けっか	はんせい
取組	目標	結果	反省
第一回 パワーアップテスト (六月)	国語 100点	1 96	漢字の練習でまちがえて覚えていたのでも次はまちがえないようにする。
		2 100	
		3	
算数	100点	1 90	自分の気持ちに負けて、サボってしまっていたので100点は取れなかった。2学期のテストでは両方100点を取りたい。
		2 100	
		3	
第二回 パワーアップテスト	国語 100点	1 96	5と1と3でミスをしてしまった。くせをもうとしりりとやっていた。
		2 100	
		3	

わたしの パワーアップ計画			
とりにくみ	もくひょう	けっか	はんせい
取組	目標	結果	反省
第一回 パワーアップテスト (六月)	国語 100点	1 96	京とという字が大になってまたけと二回目を付けてかまはるでも字がきれいで、この漢字はめんどい。
		2 100	
		3	
算数	100点	1 80	公式や文章をとばして、ここがあらたの意を付けた。
		2 90	
		3 100	
第二回 パワーアップテスト	国語 100点	1 80	修食言語が苦手だとおぼろげに、次は苦手を克服したい。
		2 94	
		3 100	

(3) 考察

児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な力と、児童の実態や学校としての課題を考慮して「パワーアップテスト」問題を作成した。このことにより、教師も「児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な力」を見直す機会になった。また、教師自身の指導を振り返ったり、授業の構想を練り直したりする等、教師側の学力向上への意識を高めることができた。と考える。

「パワーアップテスト」満点合格への意欲付けのために「わたしのパワーアップ計画」を活用したことは有効であった。自分の課題や取り組み方法を自主的に計画させることが、練習期間での意欲の継続に繋がった。さらに、少人数指導と連携させたり、家庭学習に波及させたりしながらテストを迎えるように、全職員で確認しながら進めることができた。

このパワーアップテストの取組は「まなびフェスト」の一つでもある。「パワーアップテスト 90点以上 9割」を掲げ、全職員の共通理解、家庭との連携を図りながら取り組んでいる。



平成27年度 遠野小学校まなびフェスト

～ 根を養えば、樹はおのづから育つ ～



教職員	知・徳・体のバランスのとれた人間形成(たくましく生きる力と生涯学び続ける力の基礎の育成)		
	本気で自ら学ぶ子ども(いきる)	心豊かでやさしい子ども(かかわる)	たくましく丈夫な子ども(そなえる)
学校での取組	(1) 学び方を身につけて進んで取り組む子 (2) 自分の考えを表現できる子 (3) 地域社会に関心をもち、行動する子 ① パワーアップテストで満点をめざします ② 毎日家庭学習をします。(10分×学年+10分)	(1) 礼儀正しい子 (2) 仲間を大切にできる子 (3) 進んで読書する子 ③ 進んであいさつをします。 ④ たくさん本を読みます。(低100冊、3年50冊、4年40冊、高4000ページ)	(1) 進んで運動し、体をきたえる子 (2) 進んで働く子 (3) 自分の体に關心を持ち、安全に行動する子 ⑤ マラソンやなわとびに進んで取り組みます。 ⑥ 規則正しい生活をします。(生活リズムチェック)
	○課題(見直し)、まとめ(振り返り)のある授業で学習意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。 ・単元テスト100点以上9割 ・ パワーアップテスト90点以上9割 ・県学調「読むこと」「言語」「計算」の正答率80% ○家庭学習の方法を指導し、習慣化させる。 ・毎日取り組む子9割	○場に応じた挨拶ができるように指導する。 ・進んで挨拶する子85% ○読書環境を整える。(図書室の整備、本の貸出、朝読書、並行読書) ・目標冊数達成者9割	○いきいきタイムの工夫により、マラソンやなわとびに集中して取り組ませる。 ・目標達成者9割 ○自分の健康状態を意識させ、望ましい生活習慣を身につけさせる。 ・生活リズムチェック目標達成者8割
家庭での取組	・子どもの頑張りを認め励まします。 ・家庭学習の時はテレビを消します。	・家族で挨拶をかわします。 ・親子で読書に取り組みます。	・自分の仕事(手伝い)をさせます。 ・歩いて登校させます。

かしく

やさしく

たくましく

